

# 大和川今池遺跡現地公開資料

平成 19 年 6 月 30 日（土）

## 遺跡の概要

やまとがわいまいけ  
大和川今池遺跡は、松原市・堺市両市域に所在し、今回の調査地は遺跡範囲のうちでも東端に位置します。

当遺跡の発見は、調査地西側に位置する今池水みらいセンター建設に先立つ発掘調査にさかのぼります。この調査では、古墳時代を中心とする遺構、遺物が確認され、遺跡として周知されることになりました。

過去の調査では、旧石器時代以来の多数の重要な遺構や遺物が発見され、府内でも著名な遺跡のひとつに数えられています。中でも、5～6世紀の建物、井戸、溝などは、当時の集落（ムラ）を知ることができる資料となっています。

さて、遺跡内や周辺の字名には、いくつか興味深いものがあります。まず、今回の調査地は「宮ノ前」という字名で、これは阿麻美許曾神社にかかわるものでしょう。このほか、今回の調査地の南南西800m程の西除川沿いには「狐塚」・「品塚」の字名があり、古墳の存在をうかがわせます。また、同じく南東400m程には「堂ノ西」・「薬師堂」、西400m程には「観音堂」の字名がそれぞれあり、寺院の存在をにおわせます。なお、両字名付近では大阪府教育委員会により調査が行われており、これを裏付けるような中世の瓦が多数出土しています。

今回の調査は、都市計画道路大和川線及び都市計画道路堺松原線（一般府道住吉八尾線）建設に伴う発掘調査です。今回現地公開を行った部分では、弥生時代後期（2世紀）、古墳時代後期（6世紀）、古代（8～9世紀）などの遺構、遺物が見つかります。

【弥生時代】 後期の土器がまとめて捨てられた土坑などが見つかります。これらは今回の調査地より東側で行われた三宅西遺跡や池内遺跡で見つかるもの（前期～中期）よりも新しいものです。

【古墳時代】 古墳の周濠と考えられる溝が見つかります。今回の調査地南側で行った調査では、周濠に囲まれた内側から、埴輪を棺に転用した埴輪棺が確認されました。

【古代】 掘立柱建物などが見つかります。詳細な時期については、出土遺物のさらなる検討が必要ですが、8～9世紀頃に、複数回の建て替えが行われたようです。これらの建物は、近在する河内国丹比郡式内社阿麻美許曾神社との関係が考えられます。阿麻美許曾神社は、平安時代前期（大同年間806～809年）創建という伝承があります。神社創建と今回確認の建物の時期が近いことから、今後これらの関連を詳しく調査する必要があります。

また、これらの成果以外に、これまでに調査を行った部分では、古代の水田跡、中世以降の井戸なども見つかります。今後、さらに発掘調査を進めると同時に、調査成果から考えられる各時代の生活の移り変わりや、それらの歴史的位置付けを考えていきたいと思います。



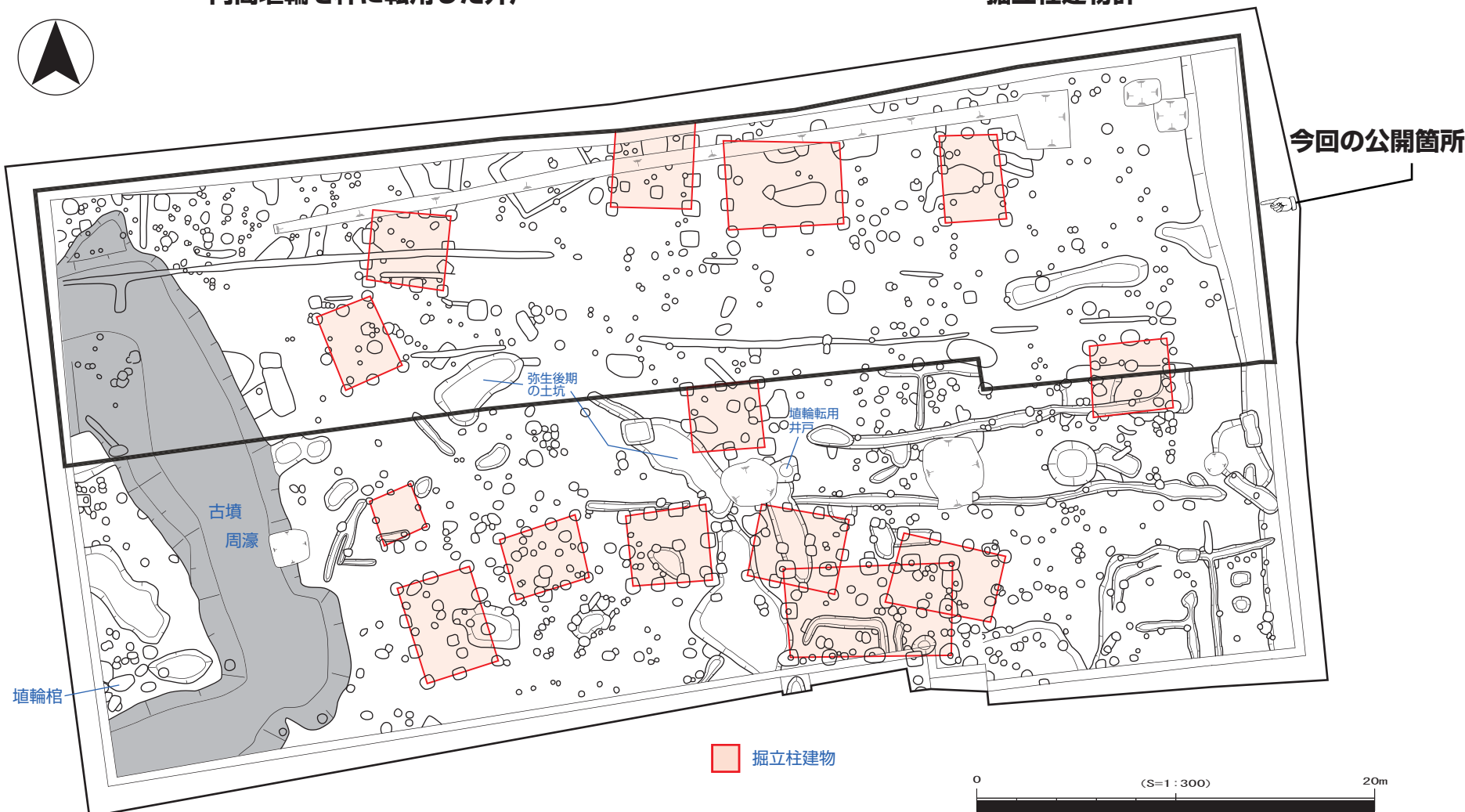
財団法人 大阪府文化財センター



円筒埴輪を枠に転用した井戸



掘立柱建物群



今回の公開箇所



古墳の周濠（南側）



埴輪棺



まとめて捨てられた弥生時代後期の土器